

宇治市の 小中一貫教育



宇治市教育委員会では、平成 24 年 4 月に「将来の夢を持ち、自己実現に向けた努力ができる子ども」の育成をめざし、義務教育 9 年間の連続した学びの中で、子どもたちに確かな学力を身に付けさせるとともに、一人一人の個性や能力を伸ばすことができるよう、すべての市立小・中学校で小中一貫教育を全面実施し、加えて本市初めての施設一体型小中一貫校として「宇治黄檗学園」（宇治小学校・黄檗中学校）を開校します。

宇治市教育委員会

小中一貫教育の目標・ねらい

小中一貫教育の目標

「学校が変わり、地域が変わり、
そして、子どもたちが光り輝く小中一貫教育」

小中一貫教育のねらい

1 9年間を見通した系統的・継続的な学習指導により、児童生徒の学習意欲の向上や学習習慣の確立を図り、確かな学力を育成します。



2 9年間を見通した系統的・継続的な生徒指導により、児童生徒の個性の伸長と社会的な資質や能力・態度を育成します。



3 9年間を見通し、地域に根ざした特色ある教育活動により、自分の住む地域に自信と誇りを持ち地域に貢献する人材を育成します。



4 児童生徒間の多様な交流活動や地域社会との交流により、豊かな人間性や社会性を育成します。

5 教職員が児童生徒一人一人への理解を深めることにより、個に応じた指導や支援を充実します。

6 小学校と中学校の教職員が相互に交流を深めることにより、教職員の資質と指導力の向上を図ります。



7 中学校ブロックを単位とした地域社会・保護者相互の連携を深めることにより、学校・家庭・地域社会が一体となった教育環境づくりを推進します。

義務教育9年間を見通した小中一貫教育について

子どもたちの実態、身体面や思考面の発達などから、9年間の前期（小学校1年生～4年生）、中期（小学校5年生～中学校1年生）、後期（中学校2年生・3年生）のまとまりとしてとらえ、次のような指導目標を設定しました。この節目ごとに、子どもたちの学習についての達成状況を把握しながら、小学校と中学校の教員の協働によるきめ細かな教育活動を展開します。



義務教育9年間を見通した特色ある教育活動

1 学習指導要領に基づき9年間を見通した教育活動の展開

中学校ブロックごとに、地域の特色や子どもたちの実態に応じた教育活動を展開します。

2 9年間を見通すことのできる年間指導計画〔宇治スタンダード〕に基づく、系統的・継続的な指導の充実

小学校と中学校の学習内容の繋がりを意識して作成した、「義務教育9年間の円滑な接続に配慮した『義務教育9年間を見通すことのできる』年間指導計画〔宇治スタンダード〕」に基づき、系統的・継続的な指導を充実します。

3 前期（4年間）・中期（3年間）・後期（2年間）のまとまりによる指導

子どもの発達に応じて、義務教育9年間で「前期（小学校1年生～4年生の4年間）」「中期（小学校5年生～中学校1年生の3年間）」「後期（中学校2年生・3年生の2年間）」のまとまりごとに指導目標を設定し、きめ細かな教育活動を展開します。

4 小学校と中学校の教職員の相互連携による指導の充実

小・中学校合同研修会や合同授業研究会などを実施し、互いの教育内容の共通理解や指導力の向上を図ったり、小・中学校の教員がチームティーチング（複数の教員による指導）授業を行ったりすることにより、発達段階に応じた指導や、小学校と中学校をなめらかに連続させる指導を進めます。



小学校担任と教科連携教員と
AETによる外国語活動の授業

5 小学校高学年での教科担当制の実施

教科連携教員（中学校教員）による専門性を活かした指導や学級担任間の交換授業など一部教科担当制を実施し、小学校から中学校へのなめらかな接続を図ります。

6 小学生と中学生との交流活動・合同活動の充実

中学校ブロック内の小学校同士や小学校と中学校の交流行事を計画的・継続的に実施し、児童生徒の自尊感情を高めるとともに、豊かな人間関係を結ぶ力の育成を図ります。



児童会本部役員と生徒会本部
役員の合同会議

7 基礎基本の徹底を図る「いしずえ学習」の実施

基礎的・基本的な内容を確実に定着させることをめざすとともに、保護者との連携をもとに家庭学習とも関連づけながら、学びの習慣を身に付けさせる指導を進めます。



中1振り返り集中学習（ふりスタ）
〔小学校教員も支援〕

8 「宇治学」（総合的な学習の時間）の実施

各学校では、これまでの特色ある取組を継承しながら、地域との関わりの視点や小学校と中学校の系統性を高める視点で作成したカリキュラムをもとに取組を行います。

小中一貫教育の形態（小中一貫教育校と小中一貫校）

「小中一貫教育校」と「小中一貫校」の2つの形態により小中一貫教育を進めます。

小中一貫教育校



◆ 小中一貫教育校（施設分離型）

「小中一貫教育校（施設分離型）」は、小学校と中学校の施設がそれぞれ独立しているものの、教育目標やめざす子ども像などを一元化し、「1つの学校」として機能する形態で、それぞれの教職員、児童生徒が積極的な交流を行いながら教育活動を展開します。

9 中学校ブロックは下記のとおりです。

【宇治中ブロック】

- ・宇治中学校
- ・菟道小学校
- ・菟道第二小学校

【南宇治中ブロック】

- ・南宇治中学校
- ・西大久保小学校
- ・平盛小学校

【北宇治中ブロック】

- ・北宇治中学校
- ・小倉小学校※
- ・北小倉小学校

【広野中ブロック】

- ・広野中学校
- ・大久保小学校
- ・大開小学校

【榎島中ブロック】

- ・榎島中学校
- ・榎島小学校※
- ・北榎島小学校

【東宇治中ブロック】

- ・東宇治中学校
- ・三室戸小学校
- ・南部小学校
- ・岡屋小学校※

【西小倉中ブロック】

- ・西小倉中学校
- ・西小倉小学校
- ・南小倉小学校

【木幡中ブロック】

- ・木幡中学校
- ・木幡小学校
- ・御蔵山小学校
- ・笠取小学校
- ・笠取第二小学校

【西宇治中ブロック】

- ・西宇治中学校
- ・神明小学校※
- ・伊勢田小学校

小中一貫校



◆ 小中一貫校（施設一体型）

「小中一貫校（施設一体型）」は、小学校と中学校の施設、組織・運営を一体化した形態で、教職員、児童生徒が同一敷地で日常的に交流を行いながら教育活動を展開します。

平成 24 年 4 月、本市初めての施設一体型小中一貫校として「宇治黄檗学園」（宇治小学校・黄檗中学校）が開校します。

【黄檗中ブロック】

- 【宇治黄檗学園】
- ・黄檗中学校
- ・宇治小学校



小中一貫教育校の中学校ブロックについて

今後、小中一貫教育の成果をみながら、分散進学の解消を図っていきますが、その際には学校規模の適正化や学校配置の在り方なども考慮に入れながら、通学区域の調整なども含めて校区再編の方向について検討していく予定です。上の表では、当分の間、小中一貫教育校（施設分離型）として小中一貫教育を進めていく9つの中学校ブロックを構成する学校群を示したもので、校区再編を進めていくための「学校の分け方」を示したものではありません。

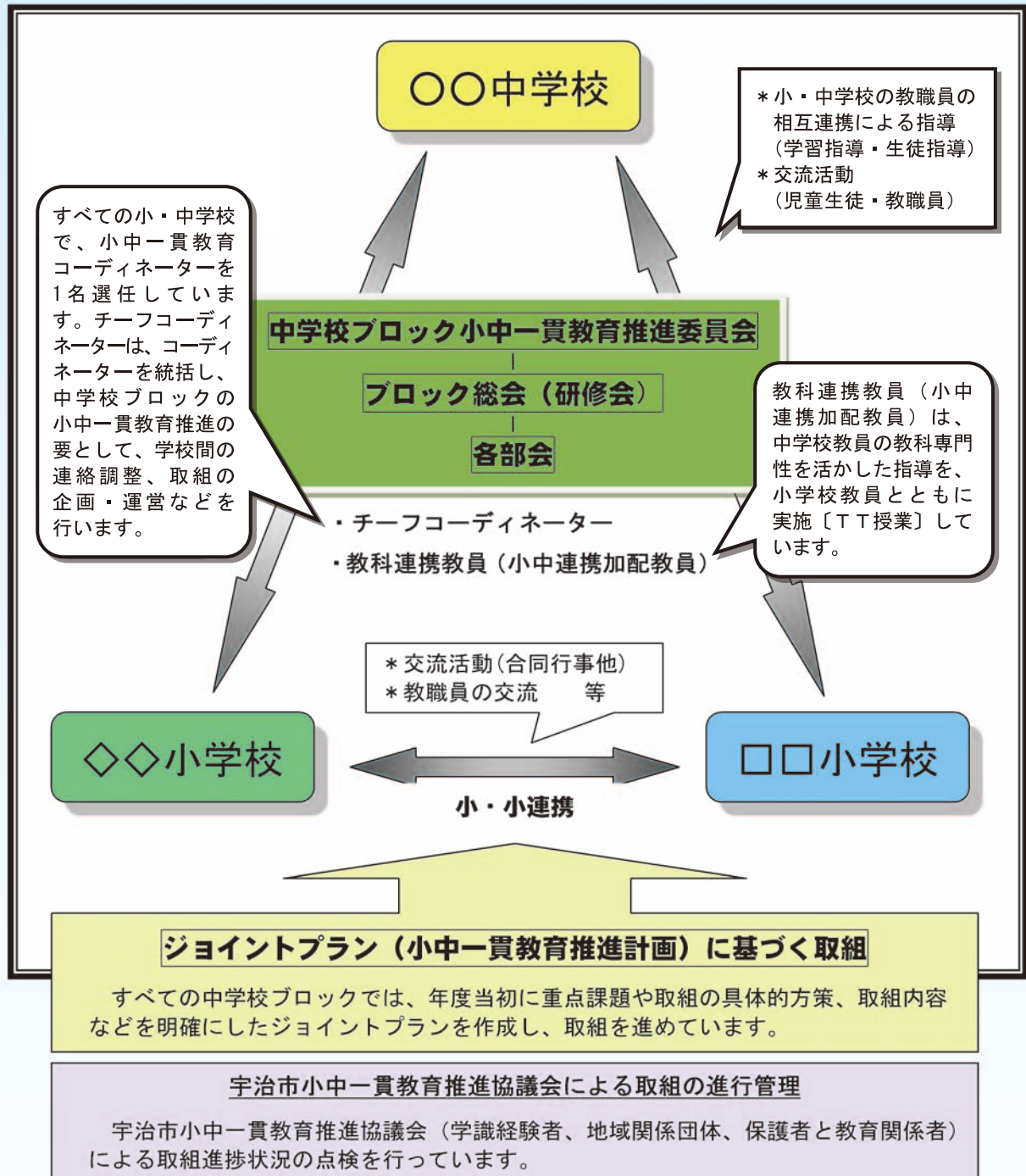
なお、※印の小学校では卒業生が2つの中学校に分かれて進学（分散進学）しており、上記に記載しているブロックとは異なるブロックの中学校に進学する地域があります。この地域の児童に対しては、進学する中学校への体験入学など児童生徒の交流活動について従来通り実施していきます。

「宇治黄檗学園」という愛称について…宇治小学校と黄檗中学校では、児童生徒や教職員などが一体感を持てるように、市民から公募した「宇治黄檗学園」という愛称を使っています。

小中一貫教育の推進体制等

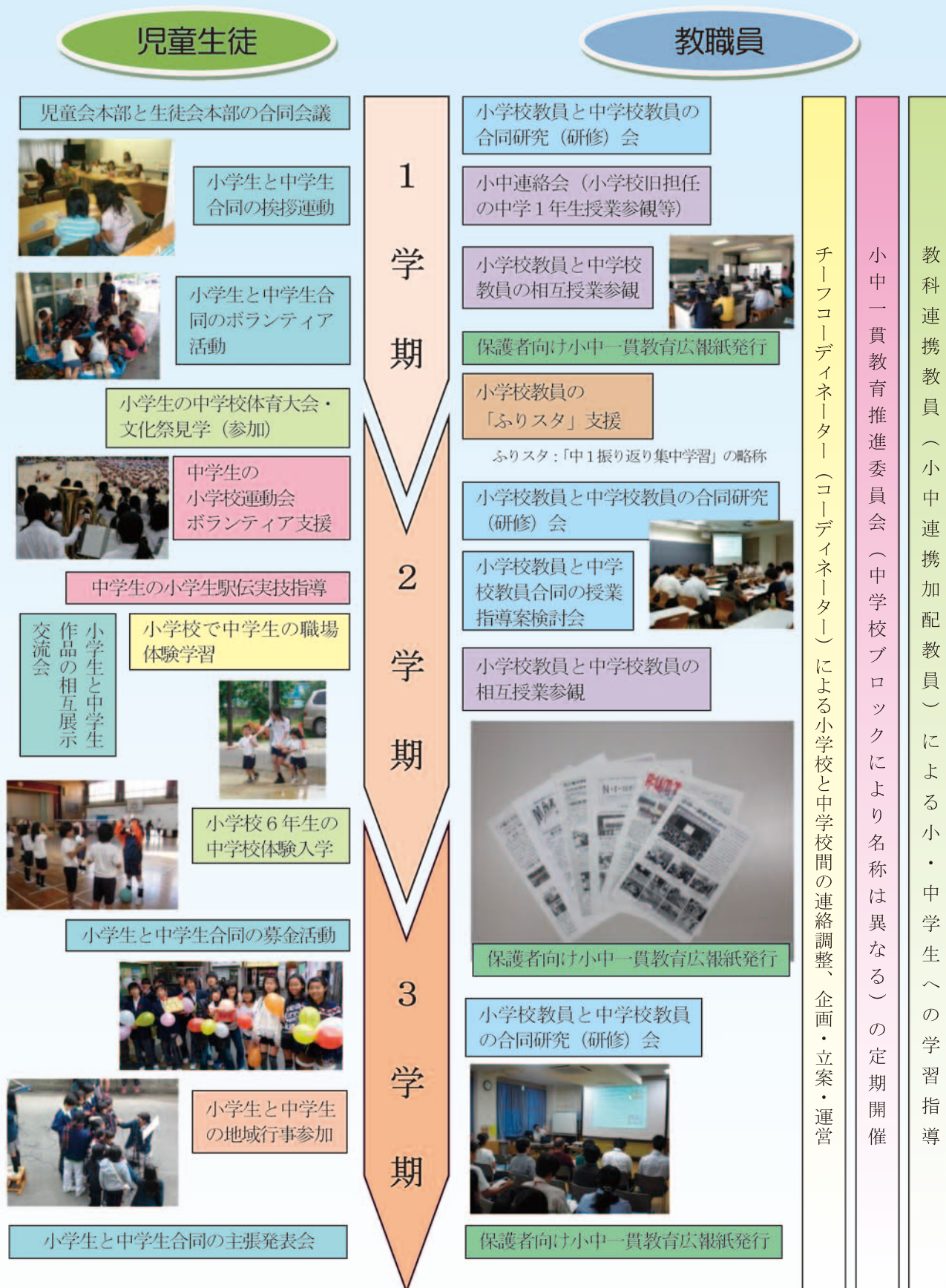
〇〇中学校ブロック

中学校ブロックで策定した教育目標（めざす子ども像）を実現するために、9年間を見通した一貫した指導、特色ある取組を推進します。



中学校ブロックの小中一貫教育1年間の流れ

中学校ブロックごとに、小学校と中学校の児童生徒や教職員が交流する取組を積極的に行っています。
〔下図は例示ですので、中学校ブロックによって取組内容及び時期は異なります〕





〔表紙の写真〕

上：小学校学習発表会で小学生と一緒に活動する中学生
中：小学生の活動を支援する中学生（小学校で職場体験学習）
下：小学校運動会で競技運営の補助をする中学生

発行 平成 24 年 3 月

宇治市教育委員会事務局 教育改革推進室 小中一貫教育課
〒611-8501 宇治市宇治琵琶33番地

TEL (0774)21-1890 FAX (0774)21-0400

<http://www.city.uji.kyoto.jp/>

E-mail: ikkankyoku@city.uji.kyoto.jp
